



TYMCからのお願い・お知らせ



医療機関の先生へ

- ・地域連携専用 : TEL **047-458-6543** / FAX **047-458-6545**
- ・受付時間 : 月～金 9:00～16:00 / 土 9:00～11:30
*日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4(年末年始)はお休み
- ・診察は原則予約制ですので、必ず「紹介状」をご用意いただき事前に「予約」をお取りください。
- ・予約外の患者さんは予約患者さんの合間に診察となりますので、お待ちいただく場合がございます。
- ・紹介状をお持ちでない患者さんは、「初診時保険外併用療養費¥3,150」が自費でかかります。

電話予約センターについて

- ・専用電話番号 : **047-458-6600** (患者さん専用)
- ・受付時間 : 月～金 9:00～16:00 / 土 9:00～12:00 (日曜、祝日、毎月第3土曜日は休日です)
*日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4(年末年始)はお休み
- ・予約時間等の変更時にも、必ず電話にてご連絡ください。

検査連携について

- ・検査連携は、医療機関からの依頼のみの受付になります。直接患者さんからの受付は出来ません。
- ・連携検査 : CT・MRI(単純)・RI・X-P(胸部)・マンモ・骨密度・セファロ の画像検査のみ。

やちよ夜間小児急病センターについて

- ・専用電話番号 : **047-458-6090** (医療相談は行っておりません)
- ・受付時間 : 365日 18:00～23:00
- ・事前の予約は必要ありませんので、直接ご来院ください。



編集後記



おかげ様で昨年12月8日(月)をもちまして、晴れて開院2周年を迎えることができました。これは、連携を推進していただいております地域の先生方のご理解ご協力の結果と、医療支援室一同心から感謝しております。

2周年を記念し、八千代医療センター内におきまして「拡大地域医療連携報告会」が開催されました。ご出席いただきました先生方、地域の代表の皆様から、それぞれ温かいお言葉を頂戴し、改めて八千代医療センターの持つ使命の重さと、支えてくださっている皆様の想いを感じ取ることができました。

3年目の今年はより一層連携を密にし、地域の医療福祉の向上に貢献したいと考えております。

さて、恒例となりました「やちよウィンターフェスタ 2009」が、2月15日(日)に予定されております。今年も、各種健康講座を中心に行う予定です。詳細が決まり次第ご案内をいたしますので、皆様ぜひご来場ください。

医療支援室 地域医療連携 本藤 潤

12月24日に開催された
Xmasコンサートなどの様子



□ ご意見・ご感想は、電子メール (renkei-j@tymc.twmu.ac.jp) または外来棟総合案内・入院棟総合案内前の『ご意見箱』へお気軽にお寄せください。お待ちしております!



平成21年1月
年2回 発行



東京女子医科大学 八千代医療センター 医療支援ニュース

greens



ぐりーんず

第3号

東京女子医科大学
八千代医療センター
医療支援室発行

地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

「東京女子医科大学 八千代医療センター 開院2周年をむかえて —そしてこれからの展望—」



病院長
伊藤 達雄

新年明けましておめでとうございます。

東京女子医科大学八千代医療センターは平成18年12月8日に開院して以来、丁度2年が過ぎたところです。

最初はマンパワー不足より155床から立ち上げ、今春よりやっと全階に電灯がつくようになりました。

そのうち、救急、小児、周産期医療については最初から全力投球して参りました。

①救急では、八千代市のメディカルコントロールを当院で行いつつ、地域全体の救急医療を担っており、成人救急は年間約12,000件となっております。救急車は年間約4,200台引き受けており、うち75%は市内、残り25%は千葉、船橋などの周辺からも引き受けております。

②小児医療は、地元八千代医師会からの参加をうけて、八千代夜間小児急病センターを運営しており、年間約18,000件を超えようとしております。

③人口急増地帯で唯一の総合周産期センターとして、正常出産から妊娠高血圧症候群(妊娠中毒症)などハイリスクまで広く出産・新生児医療を行っており、県内の母体搬送中、最多の174件(23%)を引き受けております。そして生命に危険性のある場合にも救急・脳外科など病院の機能を集めて対応し、安全安心の出産を目指しております。

最近では、外来診療も充実し、1日平均800名ぐらいとなり、待ち時間の短縮にも留意しております。また、脳・神経、心・肺臓、胃腸・肝臓、骨・関節、膀胱・前立腺、婦人科などの手術を含む急性期の治療を中心に、ベットの利用率は90%を超え、大車輪で動いております。

人口19万を超えた八千代市を中心に地域の中核病院として、私達八千代医療センターは高度医療を提供し、「健康都市八千代」を目的に頑張っております。

その為にもさらに地域の医療機関の皆様と連携を密にするとともに、2月15日(日)に開催されます「やちよウィンターフェスタ」などを通じ、「開かれた病院」の実現を推進していく所存です。

今号では、総合診療・眼科・耳鼻咽喉科をご紹介します。

本年も八千代医療センターをよろしく願いいたします。



八千代医療センターは「急性期」に特化した
「地域連携型医療」Ren-Kを目指します。



「TYMCの救急医療について」

— 救急医療の現場から地域の先生方へのメッセージ —



副院長・総合診療科
石川 雅健

TYMCに課せられた機能の一つに、救急診療体制の構築があります。

その基本理念は「24時間、365日全ての人々に安全で良質な医療の提供」であり、基本方針は「初期診療から専門医療へのスムーズな連携」です。

そこで、TYMCでは救急医療を初期診療と専門的治療に分け、初期診療を担当する総合・救急診療科を設置しました。

歩いて病院に来られた(Walk-in)患者様は総合・救急診療科診察室で診察し、救急車で搬送される患者様は救急室(ER)で初期診療を行います。この総合診療室、救急室(ER)で救急医、外科系医師、内科系医師が互いに協力し、初期診療を行い、緊急度の高い、一刻を争う病気や専門的診療を要する場合はあらかじめ敷いてあるオン・コール体制により、専門医へとスムーズにバトンタッチする救急医療体制を敷き、開院以来2年間、全医療スタッフが協力して救急医療を行い、救急車の市外搬送を激減してきました。

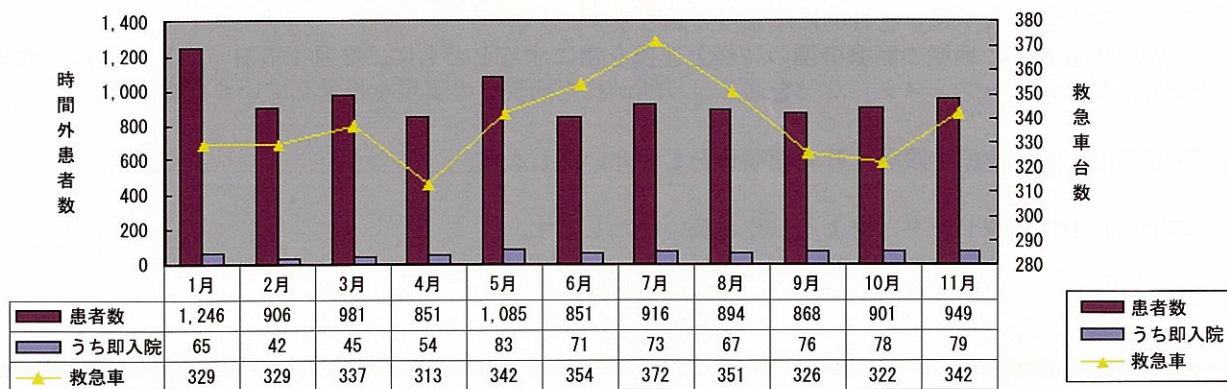
しかし一方、Walk-in患者様の多くが地域で開業されている先生方の紹介なしに来院していることに改めて驚かされております。マスコミ(医療バラエティなども含む)の影響もあり、市民の総合病院(大学病院)指向が高いことがその背景にあります。実に入院精査、治療を必要とする方はWalk-in患者の約3%程度に過ぎないことが過去1年間のデータで示されています。

このようなWalk-in患者様に対し、病院勤務医だけで対応し続けることは専門性を持つスタッフの疲弊を招き、救急車の受け入れにも支障をきたしかねません。

安全で良質な救急診療体制を持続させていくために、地域医療連携の上でもいわゆる一次救急患者の対応を考え、早急に対策を練らなければなりません。

市民に開業されておられる先生が市民のプライマリケア医であることを認識していただくためにも、休日、時間外診療所化しているTYMCにおける休日、時間外診療への参加をご検討していただきたいと考えております。

平成20年 時間外救急患者データ



※「時間外」 平日 16:30~翌8:30 / 土曜日 12:30~翌8:30 / 第3土・日・祝 8:30~翌8:30
※救急車台数は月間延べ台数



リレーエッセイ 診療科紹介 ~ 眼科



船津 英陽 医師

眼科では外来診療、手術ともに幅広い疾患を4人の眼科専門医と医療スタッフで行っております。

外来診療に関しては、白内障、緑内障や糖尿病網膜症(以下、網膜症)、黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症、黄斑上膜などの網膜硝子体疾患(眼底疾患)などに対して積極的に診療を行っています。網膜症は当院の糖尿病・代謝内科との連携のもとに、軽症から重症患者まで幅広く診療しています。網膜静脈閉塞症に対しては、症例に応じてレーザー治療、薬物治療、硝子体手術などの適応を慎重に検討しており、網膜症や黄斑浮腫とともに病態解明(サイトカイン、眼循環など)に努めており、症例を集積しています。また、当院では小児、周産期医療に力を注いでいるため、小児科や新生児科との協力のもとに、小児眼科、斜視・弱視、未熟児網膜症などの疾患に対する診療を行っています。

手術においては、白内障手術は入院および日帰り手術の両者を施行しており、年齢、全身状態やニーズに応じて対応しています。また、硝子体手術においては内視鏡硝子体手術システムや23ゲージ(小切開)硝子体手術システムを用いた低侵襲手術を心がけ、BIOMやシャンドリア照明による広角眼底観察システムを活用しています。

外来患者数や手術件数の増加に伴い、医療連携の役割がますます重要になってきています。当科では積極的に紹介元への受診(後方連携)を推奨しています。診療の第一線の連携先の先生方や我々との間で、認識の共有化や役割分担の明確化を遂行して、密接な医療連携を構築したいと考えています。

本年もよろしくお願い申し上げます。



リレーエッセイ 診療科紹介 ~ 耳鼻咽喉科



高野 信也 医師

当科は日本耳鼻咽喉科学会認定専門医2名で月・火・水・金曜日の午前中に一般外来を行っています。また、木曜日は手術日です。

予約がなかなか入らず、近隣の先生方にはご迷惑をお掛けしていると思いますが、急性疾患の治療(急性扁桃炎、咽喉頭炎、めまい、突発性難聴、顔面神経麻痺など)が必要な患者様については、電話による連絡をいただければ可能な限り対応させていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

〔診療内容〕

耳鼻咽喉科は、五感のうち聴覚・嗅覚および味覚の三つを治療対象としている科目です。耳音響放射検査およびABR(聴誘発反応検査)も可能ですので乳幼児の難聴の診断も可能です。

しかし、嗅覚に対しては基準嗅覚検査、味覚に対してはろ紙ディスク法による検査が出来ませんが、簡易の検査でも症例には対応可能です。

手術に関しましては、①慢性副鼻腔炎に対する内視鏡手術、②穿孔性中耳炎に対する鼓室形成術、③慢性扁桃炎に対する口蓋扁桃摘出術を中心に行っております。近隣の先生方にはご紹介いただければ幸いです。なお、当院では放射線治療施設が無いことから頭頸部腫瘍症例の治療は取り扱っておりませんので宜しくお願い申し上げます。

〔主な検査・医療機器〕

聴力検査(純音・語音・特殊・耳鳴・内耳機能・後迷路機能) / イピダングマトリ(ティパマトリ、耳小骨筋反射) / ABR(聴性脳幹反応検査) / 耳音響反射検査 / 平衡機能検査(重心動揺計、視標追跡検査、電気眼振計、赤外線フレツェル) / 嗅覚検査(嗅裂用針状硬性鏡) / 鼻腔通気度検査 / 味覚検査(電気味覚計) / 内視鏡検査(硬性鏡一中耳、副鼻腔、上咽頭、喉頭食道、気管フレキシブルファイバースコープ 喉頭およびビデオカメラシステム) / 電子内視鏡(NBI(NarrowBandImaging))